

# 鳥取駅周辺地区の商業活性化構想

(改訂版)

平成20年4月10日(初版)

平成21年3月27日(改訂版)

鳥取市中心市街地活性化協議会

## 鳥取駅周辺地区の商業活性化構想(改訂版)

### 目次

鳥取駅周辺地区の商業活性化構想見直しの背景について	P3
・鳥取駅周辺地区の概要と位置づけ	
【中心市街地の概況】	
まちの成り立ち	P4
まちの都市構造	P4
【鳥取駅周辺地区の概要】	
人口・高齢化率と歩行者通行量	P5
商業と空き店舗	P5
基盤整備と地価・民間集合住宅	P5
公共交通等	P5
課題の整理	P6
・鳥取市中心市街地活性化基本計画における地区の位置づけ	
【鳥取駅周辺地区の位置づけ】	
基本的考え方	P6
活性化の全体イメージ	P6
基本的な方針	P7
目標と指標	P7
歩行者通行量	P7
鳥取駅周辺地区に係わる新規事業一覧(H19年度以降に着手するもの)	P8
事業計画図(二核二軸を含む全54事業)	P10
鳥取駅周辺地区の商業活性化構想について	
構想策定の目的	P11
商業活性化重点地区について	P11
活性化のコンセプト	P12
テーマ	P12
個別の方策について	
1. 駅から商店街への誘導とまちなか回遊性の向上	P13
2. 鳥取大丸を商業メイン核とした周辺商業集積との機能拡充と一体的整備	P14
3. 活性化地区連結機能と回遊連鎖の中継核としての拠点整備	P14
4. パレットとつとりを商業サブ核とした商業集積の機能拡充と一体的整備	P15
5. 鳥取の個性を生かす地域と商業者との交流機能の増進	P16
6. 駐車場の整備や二次交通の充実による回遊促進	P17
7. 緑豊かな景観美が確保された人に優しく落ち着いたまちづくり	P18
今後の取り組み方について	P18
商業活性化エリアイメージ図(改訂版)・商業活性化方策図(改訂版)	P19～P20

## 「鳥取駅周辺地区の商業活性化構想」見直しの背景について

平成 21 年 3 月 27 日

鳥取市中心市街地活性化協議会では平成 20 年度において、昨年度策定した「鳥取駅周辺地区の商業活性化構想」の「連担的再生による魅力ある広域交流拠点の連鎖によるにぎわいづくり」をコンセプトとし、そのテーマとして「2核1モールを基軸とした商業活性化の推進」を実現すべく、掲載事業の「事業化」に向けて4つの調査事業を推進して参りました。

その結果、来年度中に実現できる事業や実現可能性の高まった事業も出て参りました。一方、中心市街地活性化エリア全体での事業間連携や、多様な民間事業が連携して動くシナリオの必要性といった「新たな課題」も明確になって参りました。

さらに追い討ちを駆ける様に、年の後半には世界的な経済環境の急激な変化が、消費マインドの冷え込みを誘発し、民間の設備投資意欲を益々減退させる結果となりました。

以上のような観点から、総合的・一体的な推進を図るために、各事業の実施時期や全体計画の中での位置づけを再確認し、さらに、新たな事業も織り込んだマスタープランとして見直す必要が出て参りました。

つきましては、鳥取駅周辺地区の商業活性化構想の見直しにより、行政、協議会、民間事業主体の3者が更なる連携強化を図り、かかるコンセプトの実現に向けて鋭意努力致すものでございます。

鳥取市中心市街地活性化協議会

## ・鳥取駅周辺地区の概要と位置づけ

### 【中心市街地の概況】

#### まちの成り立ち

本市の中心市街地は、16世紀、千代川右岸の湿地帯に面した久松山に鳥取城が築城された後、池田光政が袋川を開削して湿地帯を乾燥化、城下町が造営されて、現在の原型が形成された。以降、袋川以南の城下町周辺の人口も次第に増加し、村に属する領域にも街並みが形成されていった。

明治維新後は、明治40年の皇太子の行啓、明治41年の山陰本線鳥取駅開業を経て、都市基盤の整備が進められた。また、明治29年に歩兵四十連隊、大正10年に高等農業学校(現・鳥取大学)等の誘致が地道に進められた後、昭和5年に都市計画区域の決定以降は、道路計画の策定、上下水道の整備など、近代都市としての基盤整備が戦前まで積極的に進められた。

戦時中の昭和18年に鳥取大震災が起こり、建物の大半が損壊し、戦後の昭和27年には鳥取大火災により市街地の大部分が消失し、その復興に177.2haの土地区画整理事業が実施された。また、被災せず事業区域から外れた駅周辺においても、昭和40年代に入って土地区画整理事業が施行され、昭和55年には鳥取駅高架事業も完成した。こうして、本市の中心市街地は、比較的早い段階で、基本的な都市基盤が整備された。

#### まちの都市構造

城下町鳥取は、久松山や袋川、千代川などの地理的条件のもとで形成されたものであり、市街地の複数の街路からは、ランドマークである久松山を仰ぎ見ることができる山あて景観が継承されているほか、久松山(鳥取城)を基点として放射状に伸び、多くの人々が行き交う街道は、現在もまちの軸としての機能を有している。

また、鳥取駅開業に伴い、近代に形成された鳥取駅周辺地区は、外部からの人やものが行き交う要衝として発展してきた。特に鳥取駅を中心に商業やサービスを生業に栄え、県東部を代表する中心的な市街地となってきた。このように鳥取駅周辺地区と鳥取城跡周辺地区がまちの2つの核であり、上方往来として特色ある智頭街道と駅からの目抜き通りである若桜街道の2つの軸が本市中心市街地の都市構造上の特徴である。

そのほか、二核の間の地区においても城下町の内外を分ける外堀の袋川や、町割などの城下町に特有の骨格が見られる。

## 【鳥取駅周辺地区の概要】

### 人口・高齢化率と歩行者通行量

中心市街地内で増加している中高層集合住宅の建設の影響により、中心市街地の人口、世帯数は下げ止まりの傾向が見られるものの、高齢化率は27%を超えている。

中心市街地の歩行者通行量は減少を続けている。休日に比べて平日の通行量の方が多いが、近年平日が大きく減少している。

地点別に見ると、鳥取本通り、瓦町、太平線通りにおいて大きく落ち込んでいる。

### 商業と空き店舗

鳥取駅前、若桜街道、智頭街道周辺に商店街が形成されている。3000㎡以上の大規模小売店舗は中心市街地に4店舗あり、駅周辺に分布している。

大規模小売店舗の中心市街地からの撤退や郊外流出が進む中、中心市街地の事業所数や商店数、小売販売額等は全体的に落ち込んでおり、下げ止まりの傾向は見られない。

空き店舗は多く見られるが、近年空き店舗対策事業に取り組んでおり、空き店舗解消の効果が見られる。

### 基盤整備と地価・民間集合住宅

大火による区画整理事業に始まり、道路整備、鳥取駅の連続立体交差化など、中心市街地の基盤整備は昭和50年代には大部分が完了しており、その後大きな基盤整備は実施されていない。

高齢化の進行に伴い、建物の老朽化、空き地等の低未利用地が増加し、地価も下落している。こうした背景を受け、中高層の民間集合住宅の建設が進んでいる。

### 公共交通等

中心市街地にはJR鳥取駅があり、北口にはバスターミナルが設置されている。

JR鳥取駅並びに路線バスの利用客が低迷しているが、鳥取市100円循環バス「くる梨」は利用者数を伸ばし好調である。

鳥取駅近くの市営駐輪場ではレンタサイクルが利用でき、「くる梨」と共にまちなかの移動手段（二次交通）を充実させることで、自家用車以外で移動する人が増加し、にぎわいの創出が期待できる。

## 課題の整理

「まちなか居住の推進」。人が快適に住み続けられるまちづくり。

「にぎわいの創出」。活気があり人が集まる仕組み。空き店舗等の活用及び空き店舗を生まない仕組み。

「地域資源の活用」。自然や歴史・文化を活かしたまちづくり。

・鳥取市中心市街地活性化基本計画における地区の位置づけ

### 【鳥取駅周辺地区の位置づけ】

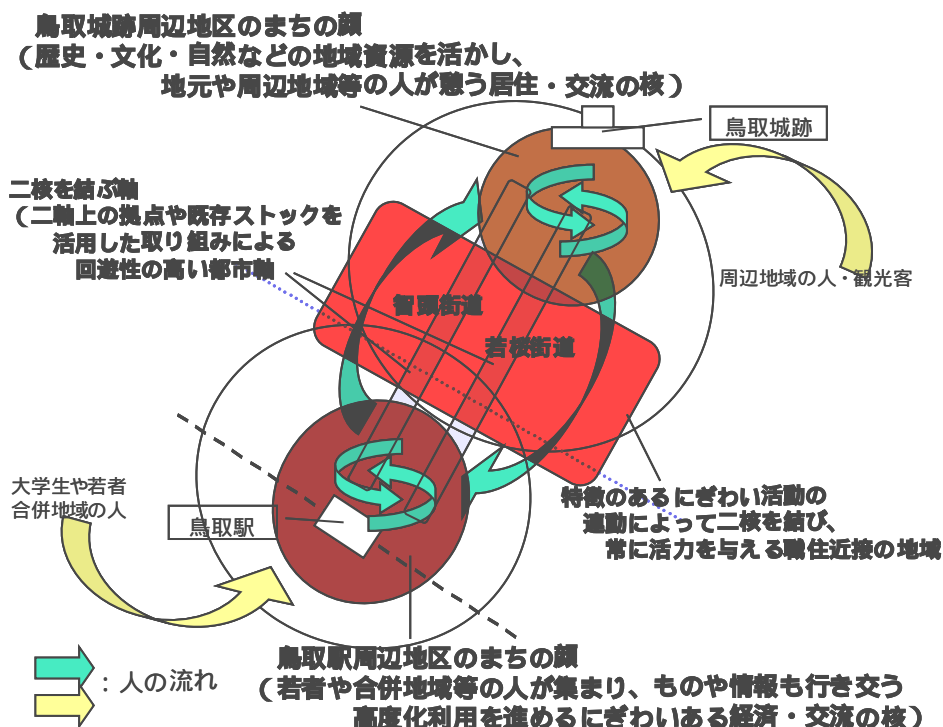
#### 基本的考え方

鳥取市中心市街地の成り立ちや歴史を踏まえ、城を中心に城下町として形成された鳥取城跡周辺地区、駅を中心に近代に形成された鳥取駅周辺地区の2つの地区を核とし、この2つの核をつなぐ若桜街道、智頭街道を2つの軸として(二核二軸構造)、中心市街地の再生を図る。

具体的には、鳥取駅周辺地区は様々な都市機能が集積した賑わいと交流のエリアとして位置づけ、若桜街道、智頭街道の沿道・周辺に賑わいと交流の拠点を形成することにより、回遊性を高め、再生の波紋が中心市街地全体に広がるよう、様々な事業を展開していく。

#### 活性化の全体イメージ

鳥取駅周辺地区はまちの顔として、若者や合併地域等の人が集まり、ものや情報も行き交う高度化利用を進めるにぎわいある経済・交流の核。



## 基本的な方針

「住みたいまち」。日常生活に必要な機能が集積した、住みたくなるまち。

「行きたいまち」。多様なひと・もの・情報が集まる、行きたくなるまち。

「ふるさと感じるまち」。文化と歴史、自然を感じることができるまち。

## 目標と指標

基本的な方針を踏まえて本基本計画の再生のテーマ

「住みたい 行きたい ふるさと鳥取 ~<sup>いなほのくに</sup>因幡国の都市核づくり~」

を目指します。

指 標	現況値	5年後の目標値 (平成24年度)	主要事業
中心市街地内の 居住人口	12,268人	<b>12,800人</b> (+532人、+4%)	・既存建物のコンバージョン、 共同建替えの推進 ・低未利用地を活用した集合住 宅の整備 等
平日 歩行者 通行量	鳥取 駅周 辺 13,732人	<b>14,400人</b> (+668人、+5%)	・鳥取生協病院移転建替 ・健康福祉施設整備・運営事業 (鳥取生協病院跡ビルの活用) ・空き店舗活用事業 等
空き店舗数 空き店舗率	55店舗 11.7%	<b>46店舗</b> <b>9.8%</b>	・鳥取市における開業支援事業 ・チャレンジショップ事業 等

## 歩行者通行量

鳥取駅周辺地区において、実施が予定されている各事業が歩行者通行量増加に繋がることが期待される、次の7地点を歩行者通行量調査地点として設定した。

A：日本交通ビル前、B：本通りビル前、C：パレットとっとり前、D：末広通り（谷本酒店前）、E：錦通り（鳥取信用金庫前）、F：駅前通り（サンプルアンプル前）、G：Sマート前（鳥取生協病院整備の事業効果を図るため、主要6地点にGを追加）。

鳥取駅周辺地区に係わる新規事業一覧（H19年度以降に着手するもの）

NO	事業名	事業内容	実施時期	実施主体
1	駅前駐車場整備	立体駐車場の整備	平成19年度	日本パーキング株式会社
2	鳥取生協病院移転整備	中心市街地内での病院移転と地域に根ざした医療施設整備	平成19年度～平成20年度	鳥取医療生活協同組合
3	健康福祉施設整備・運営事業（生協病院跡ビルのコンバージョン）	病院を地域の福祉や健康増進施設に用途変更	平成20年度～	鳥取医療生活協同組合
4	低未利用地を活用した民間集合住宅建設	民間事業者等による集合住宅の建設	平成19年度～	章栄不動産(株)、(株)東栄、(株)穴吹工務店、(株)マリモ
5	駅前地区環境整備事業（仮称）	まちの玄関口である駅北口周辺の環境の整備	平成22年度	新鳥取駅前商店街振興組合
6	大型空き店舗再生事業（物産観光センター跡ビル）	大型空き店舗（鳥取県物産観光センター跡ビル）の再生	平成22年度に実施予定	鳥取商工会議所等
7	大型空き店舗再生事業（本通りビル）	大型空き店舗（本通りビル）の再生	平成22年度に実施予定	鳥取本通商店街振興組合
8	鳥取ええもん蔵	空き店舗を活用した特産品の販売	平成19年度～	鳥取ええもん蔵LLP
9	地域特産品販売事業	空き店舗を活用した地域の特産品販売事業	平成20年度～	鳥取市
10	中心市街地活性化イベント支援事業	中心市街地内で実施される民間イベントを支援	平成19年度～	鳥取市中心市街地活性化協議会
11	中心市街地駐車場案内マップ作成	時間貸駐車場や各種情報を掲載したマップを作成	平成19年度～	鳥取市
12	いなばのお袋市	中山間地域の農産品・特産品を販売する朝	平成19年度～	いなばのお袋市実行委員会（鳥取商工会議所青年部）
13	2009 鳥取因幡の祭典	平成21年度開通予定の鳥取自動車道の開通の前	平成20年度～	2009 鳥取因幡の祭典実行委員会ほ



		後に開催されるイベント		か
14	鳥取市まちなか交通実験（仮称）	まちなかの交通体系を総合的に検討し、歩行空間の確保や円滑な移動等を実現	平成19年度～	鳥取市

（次項の事業計画図参照）

事業計画図(二核二軸を含む全 54 事業)



## 鳥取駅周辺地区の商業活性化構想について

### 構想策定の目的

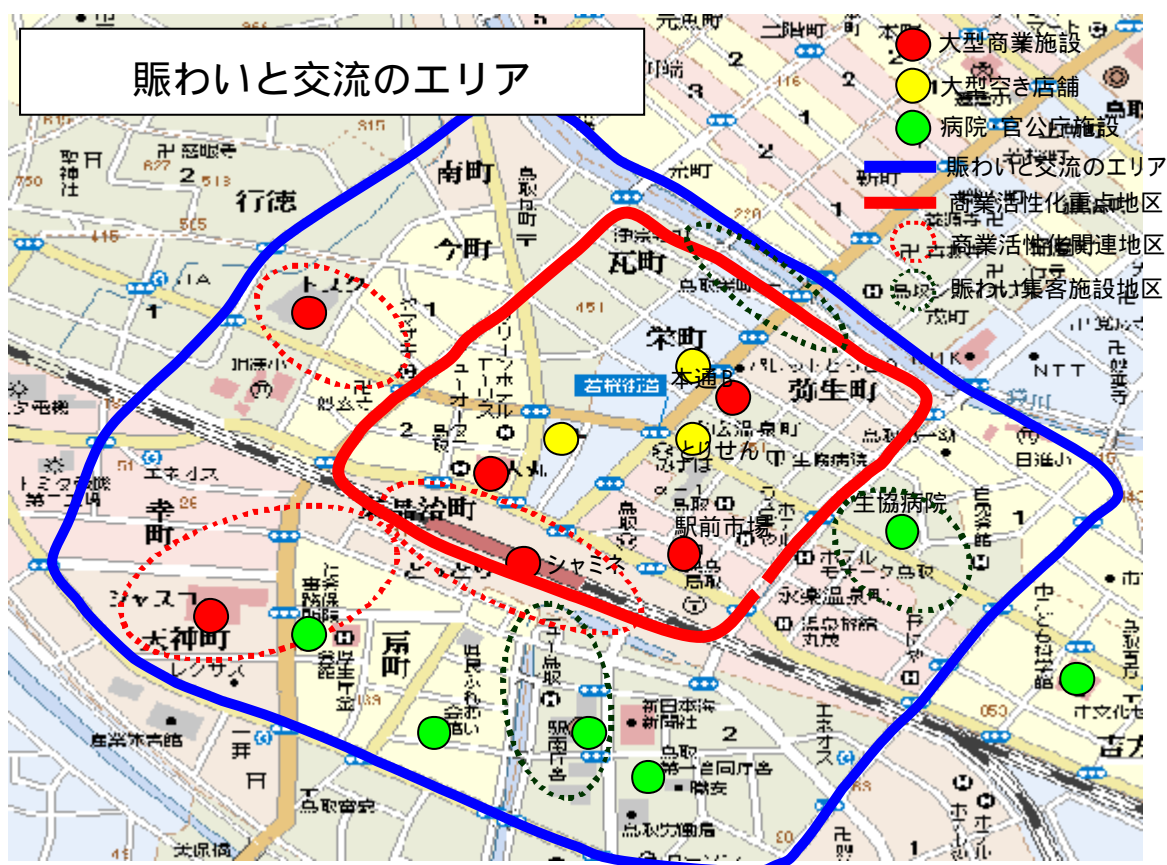
認定中心市街地活性化基本計画の事業推進については、鳥取市中心市街地活性化協議会に基本計画のフォローアップを含めて大きな役割が期待されております。また、実効性のある活性化の実現に向けては、基本計画掲載事業のみならず、さらなる民間事業の掘り起こしや有機的な事業間連携が必要との認識を強く持っております。

そのためには、運営委員会・タウンマネジメント会議等を中心として、商業活性化の重点地区である鳥取駅周辺地区での商業活性化のあり方を検討するために、商業的なニーズ分析、都市機能の面的な配置分析などを行い、鳥取駅周辺地区での総合的・一体的な効果を発現するための新たな指針を作成する必要があります。

### 商業活性化重点地区について

鳥取駅周辺地区は、大型商業施設・商店・銀行・事業所・病院・行政サービス等の都市機能が密集し、JR・バス・タクシーの公共交通や鳥取駅・バスターミナル等の交通結節点機能を有し、商業・交流・情報・交通等の要衝という点を勘案し、以下を「商業活性化重点地区」と位置づける。

鳥取駅北側から袋川より南側、智頭街道より東側、弥生橋通りより西側の概ね31haを「商業活性化重点地区」とする。



## 商業活性化の方策について

### 活性化のコンセプト

鳥取駅周辺地区では、「人に優しく、落ち着いた」「鳥取の歴史文化が漂う」「気軽な（カジュアルな）」「賑わいのある」「時間消費型」の「買い物の場」「遊びの場（交流スペース）」「生活の場」として期待されている。

そのため、鳥取市民の期待に応える当該地区の新たなコンセプトは、

『連担的再生による魅力ある広域交流拠点と連鎖によるにぎわいづくり』

### テーマ 「2核1モールを基軸とした商業活性化の推進」

- ・ 駅周辺地区の商業活性化のために、広域商圈型の鳥取大丸を商業メイン核とし、地域商圈型のパレットととつりを商業サブ核と位置づける。
- ・ 2核を1つのモールで繋ぎ一体的な商業集積として、回遊性の強化を図るために、以下の事業に取り組む。

核及びモール内に魅力ある商業・サービス機能を拡充し、適正なテナントミックスを図る。

歩行者・自転車・車がまちなかで共存し、安全に安心して歩ける環境整備を図る。

久松山への山あて景観が保全され、緑豊かな回遊路が確保できるよう環境整備を図る。

### 個別の方策について

- ・ 個別の方策を記載するに当たり、事業化を検討し、地権者・関係者等の合意形成を図った上、事業主体を定める必要があります。
- ・ 事業化を推進していく中で、事業主体・事業内容等の変更も想定されますので、随時合意形成を図りながら推進する事を前提としております。
- ・ 短期とは1年～2年以内に事業化、中期とは3年～4年以内に検討から事業化、長期とは5年以内に事業化を前提とした調査・研究を指します。
- ・ 実施主体の「中活協」とは、中活協が事業を掘り起こし想定される事業主体に働きかけていくものであります。尚、その場合に想定される実施主体や団体名を括弧書きで記載しました。

1. 駅から商店街への誘導とまちなか回遊性の向上

(目的)

来街者、通勤者・通学者が、駅から商店街・職場・学校にスムーズに歩けるよう、鳥取駅周辺と駅南庁舎や図書館、周辺集客地区や総合病院に、安心して快適な移動ができるよう、心理的障害をなくし、人に優しい憩いの歩行空間を確保する。

(実施事業)

NO	事業名・事業概略	内容	実施時期	実施主体
1	アーケード改築	シンボルロードを中心として安全・安心して歩行できる歩行空間の整備	短期	駅前商店街振興組合
2	シンボルロード整備	若桜街道を「シンボルロード」と位置づけ、緑豊かで明るく開放的な通り空間としての整備	短期	駅前商店街振興組合
3	横断歩道再配置	駅前大通り(愛称)(県道鳥取国府線)交通量の低減による、適切な横断歩道への再配置等	中期	中活協 市 県・公安員会 に要望
4	駅との連結機能	駅から鳥取大丸を商業動線として連結する連絡機能(回廊)の整備	中期	中活協 縣市 に要望
5	歩行者シェルター整備	駅からバスターミナルまでとバス乗降場への歩行シェルターの整備	中期	県・市
6	誘導サイン整備	駅北口広場における、分かり易く見易い誘導サイン等の整備	中期	県・市
7	関連地区との歩行者ネットワークの構築	地区間の歩行者ネットワークの連続性の確保やプロムナード整備	中期	中活協 縣市 に要望
8	快適な歩行環境の確保	バリアフリー化やユニバーサルデザインに配慮した歩行環境の確保	中期	中活協(縣市)

## 2. 鳥取大丸を商業メイン核とした周辺商業集積との機能拡充と一体的整備

### (目的)

中心市街地の核店舗である鳥取大丸と周辺商業集積の機能拡充を図るため、駅周辺を一体的な商業機能として活用し、若者を対象としたおしゃれな買回品や専門品等の補完業種テナントの導入や地区全体の魅力向上が図れる商業環境を整備する。

### (実施事業)

NO	事業名・事業概略	内容	実施時期	実施主体
1	憩いの空間創出	駅周辺の道路空間等を活用した滞留性の高い芝生広場等の常設整備。	中期	中活協(県市)
2	空き店舗対策	サンロード街区の空き店舗等の利活用	中期	駅前商店街振興組合
3	商業集積の開発	鳥取大丸・シャミネ鳥取・ジャスコ鳥取を一体的な商業機能として結合する商業環境の整備	中期	中活協 (各事業者)
4	商業開発調査	新たな商業床確保のため駅周辺街区における一体的整備の調査研究	中期	中活協 県市 に要望
5	テナントリーシング	サンロード街区の、「雑貨」「カフェ」「ファストフード」「書籍」等の時間消費型業種の誘致と時代に即応したテナントミックスの実現	中期	中活協・駅前商店街振興組合

## 3. 活性化地区連結機能と回遊連鎖の中継核としての拠点整備

### (目的)

地区内の回遊を促進させるために、メイン核とサブ核の2核の中間にある空き店舗及び通りを活かした<中継核>としての機能を確保し、地区間の密接な連携による一体的な利用促進を図る。

### (実施事業)

NO	事業名・事業概略	内容	実施時期	実施主体
1	生活支援情報発信セ	中継核を、地域観光・商業振	中期	中活協・会議

	ンターの拠点整備	興・移住転入・開業・建て替え等の生活支援情報発信センターとして拠点整備		所
2	旧生協病院ビルの再整備	中継核機能を補完する、健康・福祉等の相談や健康増進施設としての旧生協病院ビルの再整備。	中期	鳥取医療生協

#### 4. パレットとっとりを商業サブ核とした商業集積の機能拡充と一体的整備

##### (目的)

パレットとっとり周辺地区において、地域圏内の不足業種の強化及び行政・市民サービス、子育て支援・高齢者支援・健康増進等の機能と情報発信機能の導入による地域生活拠点を形成する。

##### (実施事業)

NO	事業名・事業概略	内容	実施時期	実施主体
1	商業施設の開発	パレットと通りの対面に位置する大型空き店舗とその周辺に、食品・雑貨・生活衣料等のコンビネーションストアの誘致・再整備	短期	本通商店街振興組合
2	地区の魅力向上のための機能整備	地区の集客力向上のため、地区全体でのテナントミックスによる魅力向上と地域情報発信機能を兼ね備えた一体的な再整備	中期	本通商店街振興組合
3	市民生活支援サロンの整備	本通組合ビル一階の大型空き店舗を「市民生活支援サロン」に再整備	中期	中活協・(本通商店街振興組合)

## 5. 鳥取の個性を生かす地域と商業者との交流機能の増進

### (目的)

- ・ 鳥取民藝美術館が位置する錦通りを「民藝館通り(愛称)」と呼称する。
- ・ 民藝ゆかりの地を鳥取の資源として全国にアピールし、鳥取地域の歴史・文化・芸術・芸能・観光・食・工芸・民芸等の情報を集約・発信できる拠点を整備するとともに、地域コミュニティの醸成を商業交流機能の増進に結びつけるソフト事業を推進する。

### (実施事業)

NO	事業名・事業概略	内容	実施時期	実施主体
1	カルチャーイベントの開催	民藝館通りを中心とした地区を「カルチャーマーケットゾーン」として関連業種や店舗を集約・誘導し、関連イベントを開催	短期	中活協・(民藝館通り文化村商店会)
2	定期イベントの開催	サンロード・太平線通り等の道路空間及び風紋広場・きなんせ広場等の既設広場を利用した、定期・定位置でのイベント開催	短期	中活協・会議所・利用事業者
3	地域コミュニティカードの導入	売上ポイントによる販売促進、環境に配慮・改善したエコポイント、ボランティアポイントでの加算等、市民生活の幅広い決済手段の多様化を図る、市民生活支援としての「地域コミュニティカード」の導入	短期	中活協
4	共同販促イベントの実施	大型店と商店街の連携による共同販促や共同イベントの実施	短期	中活協・(会議所・商店街)
5	市民芸術育成拠点整備	鳥取民藝美術館周辺地区内に、市民芸術を育成発表できる場の創設と拠点整備	中期	中活協・(民藝館通り文化村商店会)
6	大型観光バス駐車場の整備検討	駅周辺に大型観光バスが駐車可能な駐車場整備の検討	中期	中活協(県市・事業者)



7	緑と憩い空間の利活用	既設広場や太平・弥生・真教寺等の公園を、イベント開催機能やふれあい滞留機能が付加された「緑と憩いの空間」として利活用を図る	中期	中活協（利用事業者）
---	------------	---	----	------------

## 6. 駐車場の整備や二次交通の充実による回遊促進

### （目的）

ビジネスや観光等の来街者に対して、二次交通ネットワークの構築により、徒歩や車による来街の利便性向上を図り、鳥取駅や駐車場及び各交流拠点から街中への回遊を促進する。

### （実施事業）

NO	事業名・事業概略	内容	実施時期	実施主体
1	駅北口広場の再整備検討	駅北口広場のイメージを向上するために、その機能や役割を見直し、再整備の検討	短期	県・市
2	市内循環バスの導入	2核2軸内の賑わい拠点と駐車場を繋ぐ市内循環小型バス等の運行経路の新設	短期	中活協 市に要望
3	まちなかパーク＆ライドの導入	車での来街者・通勤者が駅周辺地区に駐車し、職場や目的地まで徒歩や自転車で気軽に移動できる仕組みを導入	短期	中活協（市）
4	二次交通の利用可能な環境整備	レンタサイクルや電動シニアカーが利用しやすい環境の整備	短期	中活協（市）
5	インフォメーションセンターの設置	駅北口広場に、地域・交通・観光・飲食のインフォメーションセンターを設置	中期	中活協 県市に要望
6	利便性の高い駐車場の整備	安価で入り易く、見易い誘導サインが整備された駐車場への再整備の検討	中期	中活協 県市・各事業者に要望
7	公共交通フリーパス券の導入	市内公共交通の1日フリーパス券・半日券等の創設検討	長期	中活協（各事業者）

## 7. 緑豊かな景観美が確保された人に優しく落ち着いたまちづくり

### (目的)

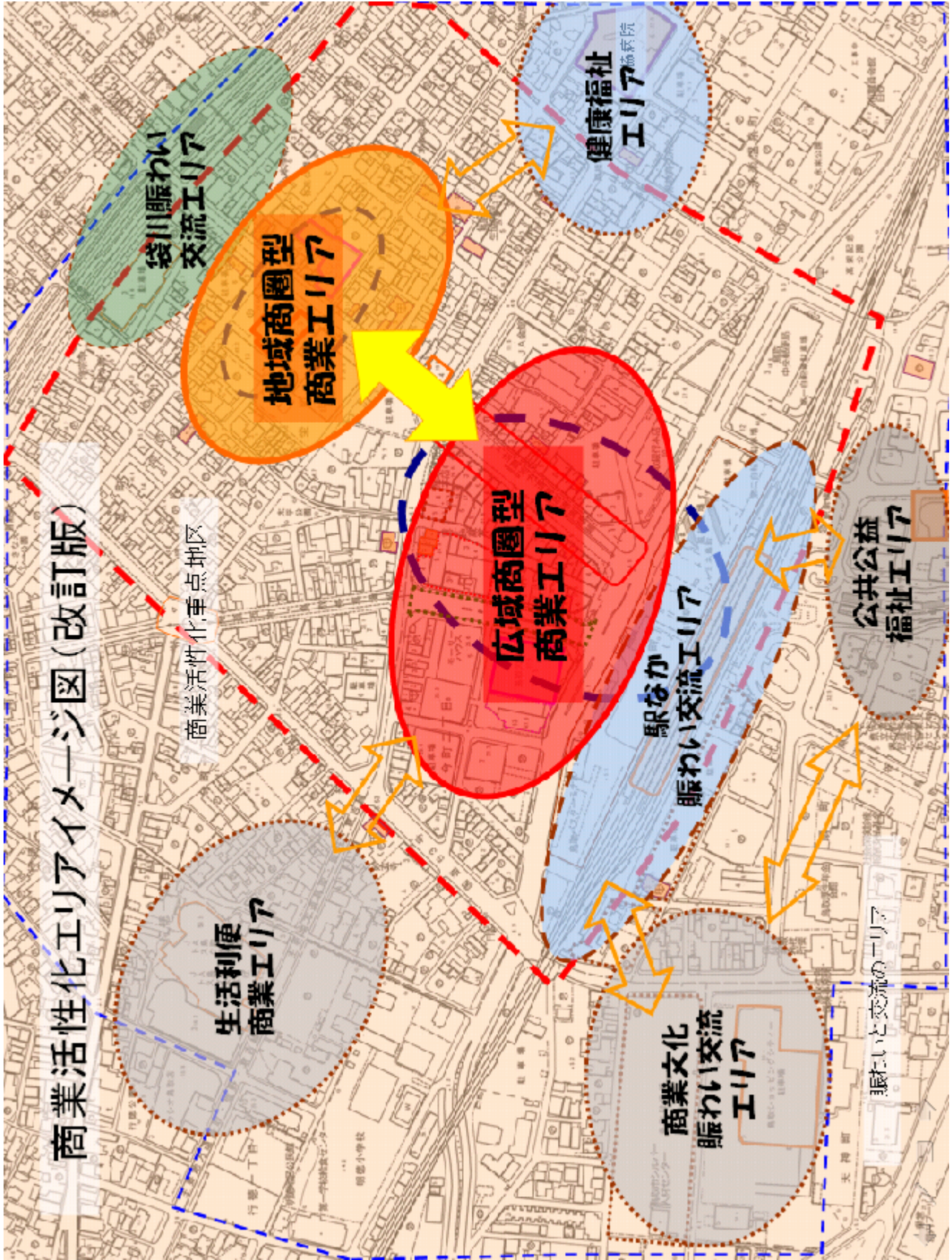
駅北口広場から久松山までを緑豊かな回遊路に整備するとともに、久松山への山あて景観軸の形成を図ることで、まちなか景観を「緑豊かで美しい」イメージに好転させ、鳥取駅から鳥取城跡周辺地区との心理的距離を短縮する時間消費型の機能を拡充させる。

### (実施事業)

NO	事業名・事業概略	内容	実施時期	実施主体
1	市民植樹イベント	シンボルロードに公募市民より苗木を寄付頂き、市民植樹による環境整備	短期	駅前商店街振興組合
2	景観を生かした集客拠点の整備	若桜橋付近の街区において、空きビルや立体駐車場等を活用し、袋川を借景した、カジュアルでおしゃれな飲食等の店舗や施設の誘致	中期	中活協(事業者)
3	個性豊かな建造物の活用とエリア景観の保全	特徴的で希少価値のある建造物を集客拠点として活用し、周辺環境との調和を図った、エリア景観の保全	中期	中活協 県市に要望

### 今後の取り組み方について

1. 構想の実現に向けた推進体制の構築  
事業推進のための協議会専門部会として、各種事業の実施に向けた事業化勉強会・研究会の実施。
2. 事業構築に向けた調査研究の実施  
事業構築を進めるために事業の実現可能性等の調査研究を始める。
3. 各種事業の広報・啓発活動の実施  
より多くの市民に各種事業の内容についての広報・啓発活動を行う。
4. 新たな事業実施主体者の構築  
地域や商店街の枠を超えた、地区ごとのイベント企画、商業施設管理のできる「まちづくり会社」の創設を検討する。



商業活性化エリアイメージ図(改訂版)



